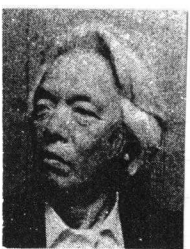


池田林儀 いけだ りんぎ 評論家。明治二十五年一月十一日秋田縣由利郡に賀保生れ、昭和四十二年七月十五日歿（八九二―一九六六）。大正二五年東京外國語學校タイ語科卒。雑誌『大觀』、『婦女界』各編輯長等を経て報知新聞社入社。ドイツ特派員として滞在中心ルリン大學に優生學を修め、十六年海軍報道部勤務、戦後は評論家として活動。作家小島被謙長、十六年海軍報道部勤務、戦後は評論家として活動。作家小島被謙・小島健二郎弟の従兄。

著書に『學生雄辯術』（大正八年七月一日樂壽堂出版部）、『改造の獨逸より』（大正十一年四月二十五日東京堂書店）、『ワンダーフォーゲル』（大正十二年十一月一日文化社）、『文明の崩壊』（大正十四年十一月十日寶文館）、『通應用優生學講話』（大正十五年一月二十五日富山房）、『永遠の貧乏』（大正十五年九月二十八日文友社）、『東西女性發達史』（大正十五年十一月五日東京寶文館）、『アマゾンゼン』（昭和二年五月二十八日報知新聞社出版部）、『増補教育はなご草』（昭和十二年一月一日東京城

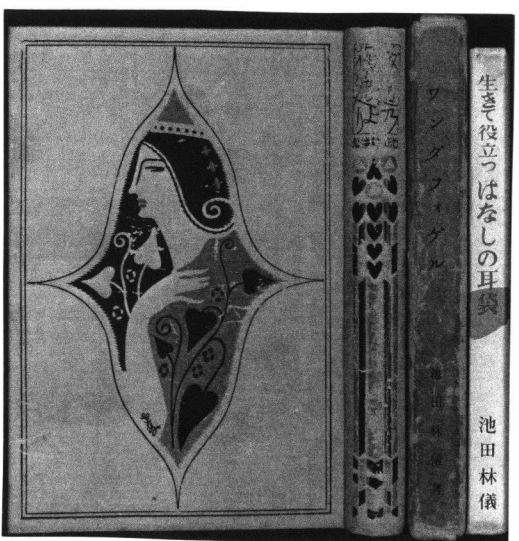
・朝鮮公民教育會）、『英國の海賊性衝動』（再版・昭和十五年八月四日亞細亞大陸協會）『亞細亞大陸協會資料』（『勝利のヒトラー』（昭和十五年十月十五日七



入社）、『生

きて役立つはな

ごの耳袋』（昭和二十一年十一月二十日北辰堂）、



生きて役立つはなしの耳袋

池田林儀

『統計をこぼしてはなしの耳袋』(昭和二十一年一月)、『二十五日北旅
堂』、『阿部彰の通信宣傳方式』(昭和二十九年五月十日生活雑誌録研
究所)等。譯書は、ワルター・シエネーラー著『大英帝國の致命線』
(昭和十五年十一月)、『二十日大民社出版部』、カール・ドレン他三名
著『獨逸の新資料及農民政策』(昭和十六年五月五日獨旬刊社出版
局)、ヒトラー述・シーラツハ編『獨逸青少年訓』(昭和十七年二月
二十五日獨又化出版局)、ヨハヒム・マーチス他二名著『ロンドン
爆撃』(白井喬二共同監修編譯、昭和十七年六月十日大阪・田中栄
堂)、フーゾルト・ローラツヘル著『性格學入門』(昭和十九年七月
十日非凡閣)、シヤール・テオドル・アンリー・ゴステル作『オイン
ンシエプーゲル物語』(編譯、昭和二十一年五月七日東和興業株式會
社出版部)等。